



2019年1月 南アフリカ新聞第18号

SABONA

鈴木 壮太

明けましておめでとうございます。

今回は、第二回アフリカあるあるです。(主に南アについて)

アフリカあるある



1クラスあたりの児童の人数が多い。こちらは約70人のクラス。授業中は基本的にざわざわしている。後ろからは黒板の文字がほぼ見えない。その場合は必死に目を凝らす。



一方こちらはマラウイという国の小学校。1クラス200人なんてことも。椅子なし、机なし、教科書なし！そしてクラスの友だちの名前を覚えるのに1年かかりそう。



高学年になると授業中に電卓(盛りだくさんの機能)を使う。基本的な足し引き算に多くの時間がかかるため、電卓で解いてしまう。しかし7+5のような一桁の計算に電卓を使っている子もいるので注意！



器用に頭の上に物を乗せて運ぶのが得意。私も何度か挑戦してみたけど、まるでできるようにならない。



6×10の計算。1本1本、棒を描き、その後1から順に1本ずつ棒を数えていく。1問解くのにとにかく多くの時間がかかってしまう。



不思議なお菓子が学校の売店に売られている。食べきれない場合はこっそり授業中に食べる。手に持っているのはカラフルな砂糖のスティック。



カラフルな布を頭に巻いている女性が多い。ちなみにこの先生は歌がとても上手。



トタン屋根の教室。雨の日は雨音が響き渡り先生の声が聞こえにくい。窓が少ないので蒸し暑い。



ずいぶん小さい消しゴム。新しい消しゴムを買ったと、ちぎって他の友だちに分けてあげる。もしくはいつの間にかちぎられている。



裸足の子が多い。



雨の日に傘がない場合はビニール袋を被ってしのぐ。



写真を撮るときのポーズの種類が豊富。